



SAAJ本部 主要部会・研究会ご案内資料

(2022年度) 関東地区主催 会員向け SAAJ活動説明会
2022年10月29日(土) 開催
にての説明資料

認定NPO法人日本システム監査人協会

1. 基準改訂委員会（主査：松枝憲司）

基準改訂委員会の目的

- ①経済産業省が2022年度に実施する「システム監査基準・管理基準（2018年版）の改訂」事業に、システム監査学会、日本内部監査協会等と共にSAAJとして参画している。
- ②2023年度以降、システム監査・管理基準ガイドラインの公開に対応する。

活動の概要、体制等

- 目標：2022年度末に両基準&ガイドラインの公開（次頁参照）
- 事業体制
 - システム監査基準：日本内部監査協会
 - システム管理基準：
 - ITガバナンスG：SAAJ
 - ITマネジメントG:システム監査学会+SAAJ

基準改訂委員会（2022年度の活動メンバー）

主査：松枝

メンバー：SAAJ会員8名 オブザーバー：システム監査学会員

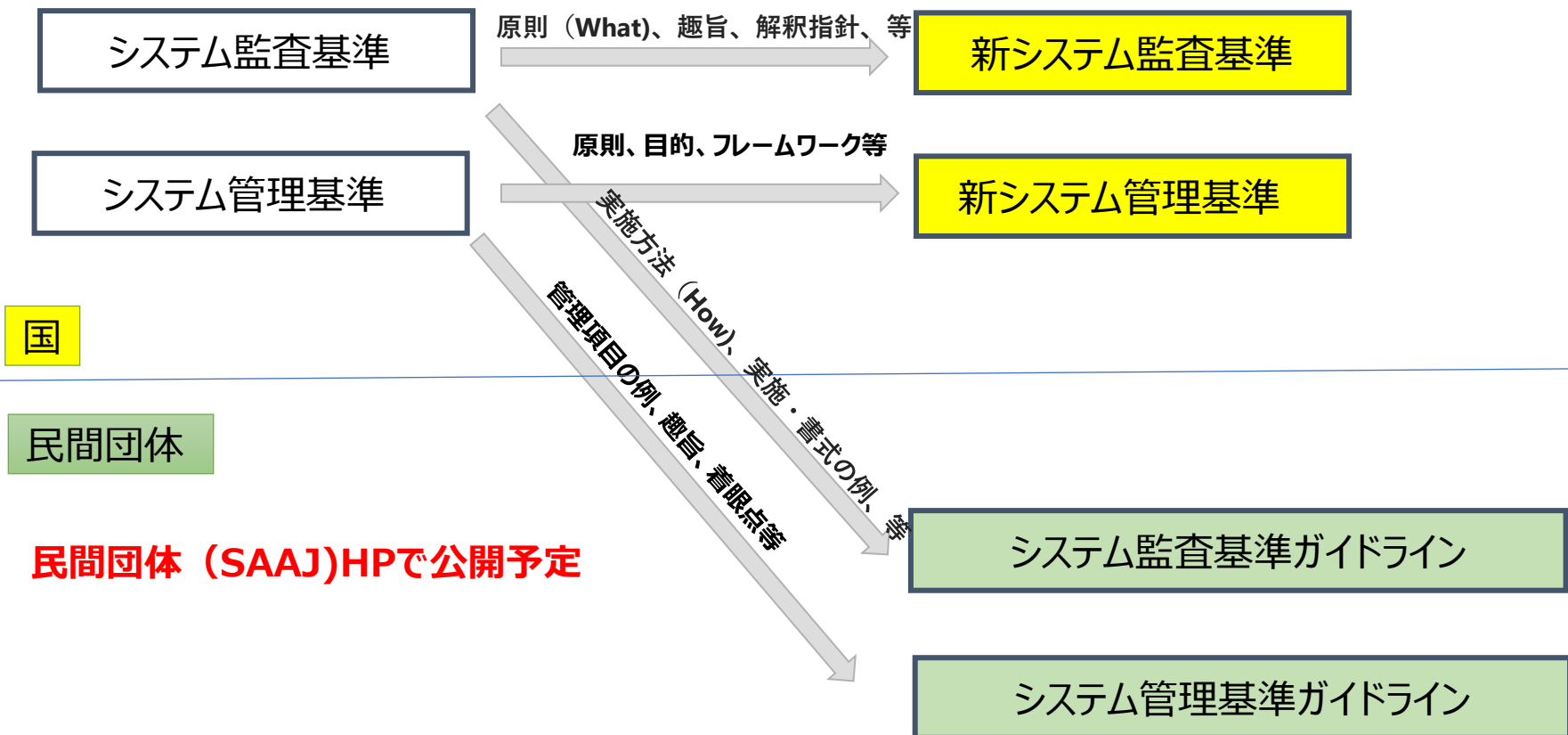
基準改訂委員会 活動実績（2022年4月以降9月末現在）

- 委員会：4/4（キックオフ&分担決定） 第2回 4/19原案検討方針等 各自原案検討
- ITマネジメントG全体会議：5/9、6/6、6/27、7/18、8/8、9/1、9/28
- ITガバナンスG：4/28、5/24、6/21、7/20、8/23、9/22 上記以外に作成&レビュー実施
- システム監査・管理基準合同WG委員会：第1回10月 3回/年
- システム監査に関する検討会（外部委員を含む）第1回10月 3回/年

お問い合わせ https://www.saa.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

【参考】改訂後ドキュメントの所管、メンテナンス主体

- システム監査基準及び管理基準本体は経産省が管理メンテナンス。
- システム監査基準ガイドライン及び管理基準ガイドラインは、連絡会参加団体にて協力して管理メンテナンスする方向（ただし、経産省も「推奨する」旨を提示するなど何らかの形で関与）。



2. CSA利用推進グループ（主査：斉藤茂雄）

CSA利用推進Gの目的

- ① 協会の認定資格であるCSA・ASAの社会的な認知度を高めるための諸活動を推進
- ② 上記のために、CSA・ASAの力量向上に資する活動を推進
- ③ CSA・ASAのコミュニケーションの活性化を支援

活動の概要、会議頻度等

- CSAフォーラムの開催
（講師を招き、30～50名前後で勉強会形式。
1回/3～4ヶ月目標、1回2H）
- CSA利用推進に関する広報（DM等）
- メンバー会議（不定期）
- CSA交流会（過去1回開催）
- その他

CSA利用推進Gのメンバ

主査：斉藤茂雄（副会長）

メンバ：億谷和彦（理事）、佐伯徹（理事）、大西智（監事、オブザーバー）

CSA利用推進G 活動実績

● CSAフォーラムの開催：2008年9月より通算38回開催

※CSAフォーラムはCSA・ASAの皆様が、システム監査に関する実務や事例研究、理論研究等」を通して、システム監査業務に役に立つ研究を行う場です。CSA・ASA同士のフェイス to フェイスの交流を図ることにより、相互啓発や情報交換を行い、CSA・ASAのスキルを高め、よってCSA・ASAのステータス向上を図ります。

● 主要自治体向け「入札条件に関するお願い」DM発送（毎年）

● 「公認システム監査人のご紹介」（リーフレット）をリニューアル発行（2017年10月）

2. CSA利用推進グループ（主査：斉藤茂雄）

つづき

課題等

- 官公庁、監査企業等にCSA・ASAを認知、登用してもらいたいが、企画力、実行力不足で認知度不十分
- CSA・ASAの知名度向上のための施策アイデアがあればご提案歓迎
- CSAフォーラムの発表者を募集中です。1～1.5H発表いただいて、参加者で内容について意見交換します。テーマは特別設けていません。活動時間はCSA・ASAの継続教育時間として充当可。

公認システム監査人（CSA）、システム監査人補（ASA）の募集について

- ❑ 2023年春期の募集期間は、**2023年2月1日～3月31日** となります。
- ❑ 資格取得をお考えの方は是非この機会にチャレンジをお願い致します。
- ❑ 同僚や部下にまだCSA・ASAを取得していない方がお出でなら、是非勧奨お願いします。
- ❑ ご不明の点は協会HPの問い合わせ画面（下のURL）からお問い合わせください。

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

3. 月例研運営委員会（主査：戸室佳代子） （副主査：豊田諭、億谷和彦）

月例研運営委員会の目的

- ① S A A J 会員向けに、システム監査に役立つ幅広く専門的な知見を提供するために、月例研究会を運営しています。
- ② S A A J 非会員の方々にも月例研究会の場を提供し、S A A J 活動を知り、入会のきっかけとしていただくことも目的としています。

月例研究会参加のメリット

- システム監査に必要な幅広い専門分野について有識者から詳しく講演を聞くことができます。質問もできます。
- システム監査に関する重要テーマや動向を知ることができます。
- リモート開催なので、どこからでも参加できます。

月例研究会 開催実績（開催形態：年10回 2時間/回 リモート開催）

- ❑ 第266回（4月）ニューノーマル時代のシステム監査
- ❑ 第267回（5月）「令和3年改正個人情報保護法」について
- ❑ 第268回（6月）JUAS「企業IT動向調査2022」の結果からみるデジタル経営の分岐点
- ❑ 第269回（7月）情報システムモデル取引契約書第二版
セキュリティ仕様と合理的な統制の在り方
- ❑ 第270回（9月）ISMAPの現状について
- ❑ 第271回（10月）スマートフォンゲーム開発を取り巻く環境と変化

4. 会報部会

(主査：竹原豊和、副主査：安部晃生、越野雅晴)

会報部会の目的	活動の概要
① 会報が、会員やシステム監査人のコミュニケーションの場、また、情報交換の場となるように。 ② システム監査に関する啓発・広報活動の一翼を担うため。	● 毎月25日に発行し、協会のホームページに掲載する。 ● SAAJの会員及び研究会、部会、各支部から投稿記事を募集する。 ● 投稿記事には、匿名と記名投稿がある。 ● 会報の年間テーマを決めている。 【2022年：この変化の時代にシステム監査が目指すもの】

会報部会メンバ（直近1年間の活動メンバー）

主査：竹原豊和、副主査：安部晃生、越野雅晴

編集支援：松枝憲司(会長)、各副会長、各支部長

メンバー：金田雅子、坂本誠、辻本要子、豊田諭、野嶽俊一、柳田正、山口達也

会報部会 活動実績

- 会報1号は、1988年2月に発行されました。(当時は隔月発行、紙媒体、会員に郵送)
- 会報108号(2009年6月号)から電子版となり、郵送は廃止になりました。
- 2017年10月には、会報全号がバックナンバーとして閲覧できるようになりました。
- 会報は、毎月メンバー持ち回りで編集しています。
- 発行後、国立国会図書館に納本されています。
- 毎年総会で、投稿された記事から優秀記事を表彰しています。(通称:会報アワード)

4. 会報部会（主査：竹原豊和、副主査：安部晃生、越野雅晴）つづき

会報記事募集内容

会報への投稿は、システム監査にとどまらず、情報社会の健全な発展を応援できるような内容であれば歓迎します。

- 巻頭言(SAAJ会長、副会長から投稿)
- 投稿記事「めだか」：エッセイ、思い
- 実名投稿：研究成果、エッセイ、思い
- 部会、研究会からの活動報告
- 注目情報、協会からのお知らせ等

会報投稿のメリット

- SAAJ会員であれば、どなたでも投稿可能です。
- システム監査人としての思いが投稿できます。
- 会報を通して、自分の考えを、多くの人に知ってもらうことができます。
- 投稿された記事が、国会図書館に納本されます。

会報部会 その他

- ❑ 会報の編集に興味がある方、会報部会への入会を歓迎します。
- ❑ 会報部会に入会されても投稿が可能です。
- ❑ 2017年11月号(200号)に「会報に見る30年の歩み」が掲載されています。

連絡先

会報部会 主査 竹原豊和 宛 <mailto:saajeditor@saaj.jp>

5. 法人部会 （主査：山口達也）

法人部会の目的

システム監査を業とする企業、およびシステム監査を実施し情報環境の健全化を図ろうとする企業が、協力して活動することによって、わが国におけるシステム監査の普及・啓発を図ること、そして、そのことを通して会員企業の事業の発展に寄与することを目的としています。

活動の概要、会議頻度等

- 会員企業におけるシステム監査の実施方法、実施するうえでのポイント、実施事例から得られたことなどを、話のできる範囲・内容で情報交換を行い、会員企業相互のシステム監査実践ノウハウを高めています。
- 2月、8月を除く原則毎月第2火曜日に定例会を開催しています。

法人部会メンバ（直近1年間の活動メンバー）

主査：山口 達也

メンバー（敬称略）：小野 修一、斉藤 茂雄、矢野 一男、齊木 孔二、真鍋 直緒、
佐々野 未知、松井 秀雄、浦上 豊蔵、鈴木 章彦、勝部 武樹、佐藤 聡美 他

法人部会 活動実績

- オンラインミーティングを利用した定例部会運営の実施・範囲拡大の実施・定着化
- 民間企業・団体様向け情報セキュリティセミナーの企画
- 情報セキュリティセミナー内容の改訂検討・改訂作業
- システム監査普及にかかわる活動計画
- 協会会報における法人会員紹介記事掲載の掲載（適宜）

5. 法人部会 （主査：山口達也）

つづき

課題、募集内容、人数等

- 企業に属されている個人会員の方等、業務としてのシステム監査、ビジネスとしてのシステム監査に興味がある方は是非ともこの機会に参加をご検討下さい。
- 起業されている個人会員の方も、法人会員のメリットや、システム監査の普及、啓発のため、是非、法人会員としてのご登録をご検討頂くと同時に、部会への参加をご検討下さい。

法人部会参加のメリット

- 企業の規模によりますが、最大10名の方が、個人会員と同じ条件で、協会活動に参加できます。
- 法人会員企業の社員職員は、月例研究会講演に何人でも会員料金で参加できます。
- 現在検討・準備中の情報セキュリティセミナーの講師として活躍できる機会ができる予定です。地方自治体とのコネクション醸成に役立てて頂けます。

その他

- ❑ 部会後の懇親会、有志によるゴルフ会の実施等、メンバーが楽しく、ざっくばらんに意見が述べられるような雰囲気作りを、歴代主査の方々が築いてきてくれました。現在は外部環境状況により活動を自粛していますが、状況が好転した際は再開する予定です。
- ❑ 現状「システム監査」が定着している企業は一部に限られていますが、もはや情報システム無しでなりたつ企業は存在しないので、「システム監査」は不可欠であり、今後も法人部会は、システム監査普及、啓発をテーマに活動してゆきたいと思います。

6. システム監査事例研究会 （主査：野田正勝）

システム監査事例研究会の目的

システム監査の普及を目的とした監査普及サービスおよび各種セミナーを実施し、システム監査スキルの向上を図ります。

活動の進め方

- ✓ システム監査普及サービス…引合いの都度（ここ3年は毎年実施）
- ✓ システム監査実務セミナー…年2回
- ✓ システム監査実践セミナー…休止中
- ✓ 事例に学ぶ課題解決セミナー…休止中
- ✓ 普及サービスの事例、事例に学ぶ課題解決セミナーの事例にもとづく実務・実践セミナーの新教材の作成および講師の育成…通年
- ✓ 定例会…毎月第一水曜日　　＜定例会＞

活動実績

- システム監査普及サービス約30例
- システム監査実務セミナー40回
- システム監査実践セミナー36回
- 事例に学ぶ課題解決セミナー22回

6. システム監査事例研究会 （主査：野田正勝） つづき

入会について

システム監査事例研究会は、協会の中でも、最も身近で実践的な活動を行っている研究会です。参加者の主体的な活動ができ、やる気次第で活動の幅は広がっていきます。

- 普段、システム監査に係わる機会のない方には、普及サービスの実施、セミナー教材の作成などの作業を通して、機会に触れることができます。
- セミナーの講師を行うことで、様々な受講者と交流を深めることができます。
- システム監査スキルの向上を目指した研究・学習活動ができます。定例会ではご自身で興味あるテーマを設定して発表・討論を行うことができます。
- 定例会開催後、懇親会を行い、交流を深めています（現在は休止中）。様々な情報交換の場となっています。

研究会メンバ（直近1年間の活動メンバー）

主査：野田正勝

メンバー：12名

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

7. 情報セキュリティ監査研究会（主査：舘岡均）

情報セキュリティ監査研究会の目的

新型コロナウイルス感染対策におけるテレワークの導入、デジタル庁の新たな設置、DXの推進など、デジタル化および適用分野は急拡大している。すなわち、システム監査の対応すべき領域、業種、技術が進展しており、監査のリスクと対策の再認識、ルールの見直しが求められています。また、従来からセキュリティ事故やサイバー攻撃が続いており、大規模な被害が発生しています。このような状況下で、当研究会では、ITおよび応用分野、セキュリティ等に係る現状と動向について、範囲を広げて調査して俯瞰的に把握し、課題等についてを整理し、あるいは個別テーマとして研究し、これらを通じてシステム監査／情報セキュリティ監査に役立てることを目的として活動を進めています。

活動の進め方

- 各メンバーがITおよび応用分野、セキュリティ等について、各業界、諸団体、専門分野等のそれぞれにおいてトピックスを見つけ、あるいは現状と動向を調査して俯瞰的に把握して、システム監査／情報セキュリティ監査に役立てる。
- さらに現在あるいは今後着目する調査／研究内容、などを持ち寄って、課題等を整理する。
- これらを基に、各メンバーの得意分野あるいは興味を持つテーマをコアにして、「個別の研究テーマ」を適宜に定めて研究活動を進める。
- 必要に応じて、テーマに詳しい知験者（他団体、SAAJ会員など）に参加頂いて活動レベルの向上を図る。

<定例会>

原則月1回（平日）18：30～20：30、協会事務所およびWeb会議を併用して開催します。

7. 情報セキュリティ監査研究会（主査：舘岡均） つづき

活動実績（テーマ）

- ✓ 2016年、2017年…「経済産業省・情報セキュリティ管理基準およびFISC安全対策基準の活用」、「大規模個人情報流出事案の原因究明」、「世界的な規模で発生 of ランサムウェア」 etc.
- ✓ 2018年…「情報セキュリティサービス基準」、「FISC安全対策基準（第9版）」、etc.
- ✓ 2019年…「情報システム監査実践マニュアル（赤本）第3版・情報セキュリティ部分」 etc.
- ✓ 2020年…「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP）」 etc.
- ✓ 2021年…「サイバーセキュリティ戦略」、「サイバーセキュリティ2021」、「セキュリティ動向調査 - ランサムウェアの最近傾向と脆弱性対策としてのMITRE ATT&CKについて」 etc.
- ✓ 2022年…「サイバーセキュリティ2022」、「情報セキュリティ白書2022」レビュー、「DX、デジタルアーキテクチャ・デザイン等の動向について」 etc.

研究会メンバ（直近1年間の活動メンバー）

主査：舘岡均

メンバ：14名、アドバイザー1名、

オブザーバー8名（長期休みの場合はオブザーバーに登録し、復帰時にはメンバーに登録できる。）

参加について

- メリットとしては、研究会のコミュニケーションで広い分野の知見が得られ、さらには、これまで自身で続けてきた研究成果を、発表、広報、等の機会が得られます。
- 次のような活動に賛同される方の参加を歓迎します。
 - ✓ 各メンバーがお互いの考え方を尊重することをベースとしてコミュニケーションを図り、全員参加型の活動を目指す。
 - ✓ 研究テーマの対象範囲が広いので、前述の〈活動の進め方〉のように研究活動を進めて行く。
 - ✓ 参加メンバーは、ITおよびセキュリティ等のトピックス、現状と動向調査、自身の研究内容などについて、研究会にて話題を提供する（月1回）。

8. ITアセスメント研究会（主査：松尾正行）

活動概要

ITサービスの提供者と利用者双方における適切な管理を維持・向上させる活動を、ITアセスメントととらえて、それに必要な活動領域に関する研究を行います。
具体的には以下のテーマに取り組みます。

(1) ITガバナンスに関連する事項

- a) JISQ 38500：2015の活用と普及
 - b) ISO/IEC 38500 改定プロジェクトへ、国内委員会SC40WG1を通じて参画
（2023年1月までDraft International Standard (DIS)投票段階）
 - c) ISO/IEC 38503:2022（Assessment of the governance of IT: ITガバナンスのアセスメント）のJIS化支援
- a)、b)、c)は統合的に進めます。英語の得意な方はより歓迎。できなくても歓迎です。

(2) システム監査/管理基準の活用等

現状のシステム管理基準を現場でより活用できるよう補足・改訂等を研究する
本基準や赤本*の活用に興味がある方歓迎です。

(3) システム監査・管理基準改定委員会（SAAJ）およびシステム監査に関する検討会（経産省）への参画

システム監査関係団体及び経産省による本委員会に参画し基準改訂を推進している。

進め方

上記(1) (2)については1回/月の定例会を開催して検討結果を持ち寄っている。

研究会開催日時

1回/月の定例会を開催（ZOOM）

8. ITアセスメント研究会（主査：松尾正行） つづき

活動実績

- 過去システム監査基準研究会として、「情報システム監査実践マニュアル（赤本）第2版」「IT統制監査実践マニュアル（黄本）」の発刊や「システム管理基準forオフショアVer1」の発表等、システム管理基準の活用に関する研究を中心に行ってきた。
- H30年4月に経済産業省の「システム監査基準とシステム管理基準の改訂委員会」に参画
<http://www.meti.go.jp/policy/netsecurity/sys-kansa/h30kaitei.html>
(2018年4月20日) 改訂版発行
- 2020年6月に赤本*（3版）を出版した。
<https://www.saa-j.or.jp/shuppan/130903Akahon3Chirashi202104.pdf>
- ITガバナンスのアセスメントに関するISO化（ISO38503）を支援し、2022/1発行された。



研究会参加のメリット

- ✓ ITガバナンスの基準に関する具体的な活用方法やITガバナンスをアセスメントする具体的な方法についての知見を獲得できる。
- ✓ ITアセッサとして、自身のビジネスの拡大に繋がる可能性がある。
- ✓ システム監査人として新たな活躍の場をメンバーとともに探っていただけます。

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

9. 個人情報保護監査研究会（主査：斎藤由紀子）

活動概要

個人情報保護監査研究会は、個人情報保護マネジメントシステム（以下PMSという）について、研究及び情報発信しています。

（1）個人情報保護監査サービス

これからPマークを取得される事業者、および更新審査を控えている事業者を対象に、経験豊富なPマーク審査員またはシステム監査人が、第三者として客観的な観点から「個人情報保護監査サービス」を提供します。詳細はこちら <https://www.saaaj.or.jp/shibu/Kojin/kojinservice.html>

（2）「6ヶ月で構築するPMS」セミナーの開催

6か月で構築する「PMS実施ハンドブック」を用いて、セミナーを開催します。

- 基本コース：月1回 14時～17時（3時間）×6ヶ月
- 料金：100,000円(+税込)/1名～（1社3名以上割引あり）
- 会場：日本システム監査人協会本部会議室（茅場町）/もしくは、Zoomリモート接続
- テキスト（別売）：6か月で構築する「PMS実施ハンドブック」V2 ¥3,520円
書店、もしくは「書籍注文書.PDF」をダウンロードし、FAX/Mailでお申込みください。

<https://www.saaaj.or.jp/shibu/Kojin/130703PMSHB2Chirashi20221231.pdf>

（3）システム監査人の推薦

PMS構築やPMS監査に関する支援や相談を希望される事業者には、システム監査人推薦制度に基づき、講師やコンサルタントを推薦します。詳細及び申込み方法は、こちら↓

<https://www.saaaj.or.jp/csa/recommend.html>

個人情報保護マネジメントシステム構築・運用に関するQ&Aコーナー

- ◆質問は、お問い合わせへ https://www.saaaj.or.jp/toiawase/saaaj_toiawase.html
- ◆回答は、個人情報保護監査研究会メンバーが行います。
- ◆回答のもたらす結果について当協会及び回答者はなんらの責任を負わないものとします。
- ◆質問者の所属、氏名、メールアドレス等は回答に必要な範囲のみで使用します。質問及び回答については、質問者の組織、氏名を特定できないようにして、さらに内容を一般化して当ホームページに掲載することがあります。質問のメールは回答後、一ヶ月以内に削除します

9. 個人情報保護監査研究会 (主査：斎藤由紀子) つづき

研究会運営について

個人情報保護監査研究会は、PMSについて、JIS規格および、法遵守の観点から研究調査活動を行っています。Pマーク付与適格性審査や、事業者におけるPMSのさまざまな悩みから、課題を発見し、共通点を見出し、原因を追究し、対策を検討していきます。

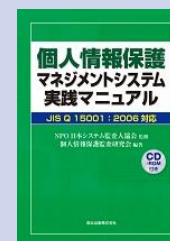
各メンバーが興味のある研究テーマを選び、定例会だけでなく、メーリングリストを利用して、最新情報の共有、意見交換していきます。

また、社会的貢献の観点から、監査サービス、研修等PMS普及に取り組んでいます。

定例研究会：第3火曜日18:30～20:00 (Zoomリモート開催)

主な活動実績：

- ・ 2006年9月「PMS実践マニュアル」(緑本)出版以降、活動を停止していた。
- ・ 2010年4月 個人情報保護監査研究会 再発足
- ・ 2014年12月「PMS実施ハンドブック」(オレンジ本)出版。
- ・ 2015年9月～ 番号利用法の改正を反映。
- ・ 2016年5月～ 個人情報保護法改定を反映。
- ・ 2019年7月20日「PMS実施ハンドブック」(オレンジ本 第2版)出版
- ・ 2020年6月12日 保護法2020改正(2022/4/1施行)を反映
- ・ 2021年5月19日 保護法2021改正(2023/4/1施行)を反映
- ・ 2022年4月1日適用 プライバシーマークにおけるPMS構築・運用指針を反映



研究会メンバ (直近1年間の活動メンバー)

主査：斎藤由紀子 (副会長)、副主査：永井孝一 (理事)

メンバー：岡田和也、小川京子、五味巻二、斎藤茂雄 (副会長)、坂本誠 (理事)

田口喜久、成田佳應、林昭夫、道下健二、村上進司、吉谷尚雄 (近畿)

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

8. プロジェクト監査研究会 [PJA研] (主査 : 原田憲幸) (副主査 : 細川健一)

活動概要

- 「システム開発を成功させる」をメインテーマとして活動しています。
- (1)2015年～2017年度「プロジェクトマネジメントのシステム監査研究会」として
「発注者のプロジェクトマネジメントと監査」(青本)を2018年3月出版しました
 - (2)2018年～2020年度「プロジェクト監査研究会 (PJA研)」と改称、**「失敗しないシステム開発のためのプロジェクト監査」(緑本)**を2020年7月出版しました
 (購入者に**「監査項目表 (105中項目 Excel版) 」をダウンロード提供**しています)
 - (3)2021年度～・**PJA研** : システム開発事例や開発技法等について議論
 - ・分科会1**「成功するプロジェクト監査分科会」**: システム開発を成功させる鍵と監査項目の追加訂正について検討
 - ・分科会2**「DX分科会」**: DXの推進、成功させる鍵について検討



研究会の開催、体制、メンバー募集

- PJA研** : 毎月1回(金)18:30～ 16名 (本部12名、北信越支部 1 名、中部支部 2 名、近畿支部 1 名)
- 分科会1** : 毎月1回(金)18:30～ 細川健一リーダ、大野勇進サブリーダ、他11名
- 分科会2** : 毎月1回(水)19:00～ 園田博リーダ、他5名
- メンバ募集中です**、ZOOMリモート会議でどなたでも参加いただけます。(補助教材: 青本、緑本)

活動状況	第18回	1月	事例：ルールベース・パッケージによる基幹システム構築
	第19回	2月	新しい風をどのようにとらえるのか？共創と新しい事業機会の探索
(1)PJA研 2022年	第20回	3月	事例：品質保証業務について
	第21回	4月	事例：速記技術に依らない会議録作成プロジェクト
	第22回	5月	事例：航空管制システム開発の課題と改善対策案
	第23回	6月	事例：基幹業務改革プロジェクト

8. プロジェクト監査研究会 [PJA研] つづき (主査 : 原田憲幸) (副主査 : 細川健一)

活動状況	第24回	7月	テスト設計の妥当性 ～テスト設計は誰がやる?～
	第25回	9月	DX分科会検討状況
	第26回	10月	アジャイル開発における品質の考え方
	第27回	11月	プロジェクト監査で使えるフレームワーク等
	第28回	12月	アジャイル開発のシステム監査 ～監査人の視点から～

(2)分科会1:成功するプロジェクト監査分科会 2022年			(3)分科会2 : DX (Digital Transformation) 分科会 2022年		
第1回	1月	実施計画: 過去発表事例を分析対象とし、成功の鍵を抽出し、監査項目表を追加訂正する	第14回	1月	中小企業DXの整理
第2回	3月	分析対象: 内製開発(PJA研第4回)	第20回	7月	事業再構築の監査
第3回	4月	分析対象: システムトラブルの教訓 (分科会1第9回)	第15回	2月	企業DXの現状整理
第4回	5月	事例発表: サービス中システムのトラブルとリスク ～マスコミ発表記事からの事例分析～	第21回	8月	監査検討③
第5回	6月	金融庁「リスク管理チェックリスト」紹介 日銀「システム障害管理のチェックリスト」紹介	第16回	3月	事例検討①
第6回	7月	分析対象: 第三者検証 (分科会1第7回)	第22回	10月	DX推進・監査①
第7回	9月	分析対象: アジャイル開発(PJA研第5回)	第17回	4月	事例検討②
第8回	10月	分析対象: 給与システム更改 (PJA研第8回)	第23回	11月	DX推進・監査②
第9回	11月	分析対象: SAP導入プロジェクト(分科会1第4回)	第18回	5月	事例検討③
第10回	12月	分析対象: 基幹システムトラブル(分科会1第1回)	第24回	12月	DXの現実
			第19回	6月	監査検討①
			第25回	1月	DX推進の方向,傾向
			課外	1月	Project DS 第17回 新しい風をどのようにとらえるのか?
			課外	3月	Project DS 第18回 A I 時代における人の役割とは?
			課外	5月	Project DS 第19回 チャットボットとオンライン接客の今
			課外	8月	Project DS 第20回 人工知能と計算機
			課外	10月	Project DS 第21回 AI開発者が語る「プロジェクト失敗の裏側」
(4)普及活動			・ 2022年1月 ISACA名古屋支部 「失敗しないシステム開発のためのプロジェクト監査」 ・ 「プロジェクト監査」紹介動画: SAAJホームページ ・ 監査本の廉価購入: 「書籍注文書.PDF」 https://www.saa-j.or.jp/shuppan/index.html		
					

お問い合わせ : saaiprojaud1092@saa-j.jp